

# ゆうりんだより



## 理事長就任挨拶

理事長 那須野 康成

このたび植田元理事長の後任として選出されました、新理事長の那須野と申します。わからない事ばかりですが、ご支援とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

私は現在、短期大学で教鞭をとりながら、就学前の障がい児施設や小中学校のカウンセラーとして子どもと保護者の方の支援をしております。

子どもや保護者の方々と関わる中でいつも思うことは「心の居場所」とは何かです。子どもも我々大人も心の居場所が必要です。皆さんは心の居場所をお持ちでしょうか。ある大学の先生によると「心の居場所とは、困ったことには真剣に立ち止まってくれたり、自分は決して他者から見放されていないと実感できる人や支えがあること、それにより自己肯定感が育まれ、その土台の上に主体的な学びや自主的な活動が開花していく」と書いておられます。私もまったくその通りだと思います。立派な家や部屋があってもそこに話を聞いてくれる人、支えてくれる人がいなければ自己肯定感や主体性は生まれません。

ゆうりん・ほだかの職員の方々には是非一丸となつて、子ども達の「心の居場所」づくりに励んでいただきたいと思えます。いま日本は高度経済成長の中、物資は溢れ欲しいものは何でも手に入る社会です。しかし、その落とし穴として、自己中心的考えが優先し、人間関係はますます希薄になり複雑さが増し、色々な問題が出てきています。ゆうりん・ほだかの子ども達には、周りに流されず自分をしっかりと見つめ、相手を思いやる心、周囲に気遣う心などを育てていただきたいと思えます。

また、中央有鄰学院は地域の方々を支えられ成り立っています。今後も地域に開かれた児童施設を目指し努力する所存です。何かとご迷惑をお掛けすることがあるかもしれませんが、今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。以上、この書面をもちまして理事長就任のあいさつとさせていただきます。

この11年間、中央有鄰学院は最も激動の時期でした



## 退任のご挨拶

植田 望

平成15年10月鈴木前理事長より、理事にと依頼されたのがご縁で、その後11年間、理事長（及び）施設長（平成19年4月より）として中央有鄰学院のお手伝いをさせて頂いていただきました。

平成26年3月に現場を、同年11月に理事長を辞し、後任者に現場と運営を託しました。この間、中央有鄰学院は最も激動の時期だったと思います。劣悪な環境と条件の中で生活している子どもたちが、安心して生活できる施設作りは、私も関係者や子どもたちにとつての夢でした。多くの関係者の皆様のご理解とご支援があり、平成22年3月、複合施設として完成することができました。美味しいウイスキーを熟成させるための素晴らしい樽は出来ました。まろやかな愛されるウイスキーになるかどうかは職員の腕にかかっています。

ほだか、ゆうりん、きょうわで生活する子どもたちが「自分たちの人権は守られているんだ。大切にされているんだ。」との実感が得られる環境を施設ぐるみで構築していくと同時に、地域・家庭における子育てを支援する輪を広げていくことが大事なこととなります。

今まで、地域の皆様、関係者の方々のご支援の輪の中で、子どもたち、職員も育てられました。とても言葉に言い表せない感謝です。今後とも中央有鄰学院の事業に、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。



今日も一日、いっぱい遊んだよ  
「いっせーので、たっだいまあ〜!!」



ゆりりん



怒った日も泣いた日もいろいろなあつたね。  
学校でも幼稚園の中でも、ゆりりんの仲間が特別。困ったときは助けあえる。  
ゆりりんのみんなは、外で遊ぶのが大好き。暖かくなつて、ゆりりんの園庭で、地域の公園で元気いっぱい遊びます。喧嘩もするけど一緒に遊べる仲間がいて嬉しいな。



一緒に作ったごはんは、おいしかったね。  
いつか、おにいちゃんみたいに上手にできる日がくるかな...



お庭の畑にじゃがいもを植えたよ。  
これから水やりは、自分たちで頑張るよ。  
じゃがいもができたなら何をたつろつかなあ。



この梅の木を追い越すのはいつかなあ



# ほだか

ぽかぽかとってもいい気持ち  
春はもうすぐそこっ！  
おそとでいっぱいあそぼうね！



うさぎのお部屋は落ち着くなあ  
大好きな職員さんとお兄ちゃんと一緒に  
うれしいなあ、たのしいなあ



2月に節分、3月には、ひなまつりに遠足と、子どもたちと職員は、とっても楽しい時間を過ごすことができました。  
ほーら、とってもいいおかわり。泣いたり、笑ったり、様々な表情をしてくれます。表情豊かな子どもたちとほだかの職員は、毎日のびのびと成長中です。

# ふれあいセンターおあだか

## ちびっこの集い

一年を振り返って

秋に、みんなで植えたチューリップが、柔らかな小さな葉を覗かせ、暖かい春をじっと待っています。

毎年、この時期になると、一年間、子どもたちと過ごした楽しい日々を思い出します。暑い夏のプールあそび、秋のフェスティバル、年末の餅つき、また、心の中の鬼を追い払った豆まき、女の子の成長を祝ったひな祭り会など、みんなで仲良く参加しました。

四月から保育園や幼稚園に入園するため、「ちびっこの広場」を巣立つて行きます。心よりお祝いたします。

寂しい日々となりそうですが、この地域は、新興住宅地であることからまた、新しい子どもたちがたくさん来てくれることと思います。

新年度も、「子育て・子育て」ができる広場となるよう、環境を整え、みな様のお越しをお待ちしています。



フェスティバルでの「たけのこ体操」



節分の会



ひなまつり運動会

# きょうわ

♪ 旅立ちと新しい出会い ♪



誕生会の料理です。すげいでしょ？  
このあと、パイ投げをして盛り上がりました。

きょうわでは、3月末にひとりの女兒が、大学進学で一人暮らしを始めるため、退所しました。これから夢に向かって勉学と仕事を両立させながら頑張っていこうとしています。

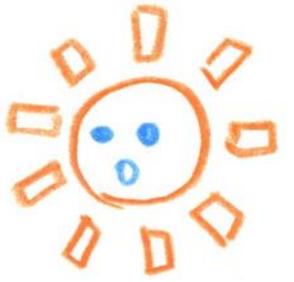
ここで生活する子どもたちにとって、先輩たちが巣立っていく姿は、憧れであり目標です。別れの寂しさを感じながらも、共に苦労してきた者同士、元気に送り出し、応援し続けていくことでしよう。

そしてその後、ひとりの女兒を新しい仲間を迎え、職員の入替わりもあり、新たなメンバーでスタートしました。

様々な困難に立ち向かい、乗り越えていこうとしている子どもたちを支え、共に歩んでいこうと思っています。

# 発達障がい児の生活支援

ゆうりんケアワーカー 山内 美樹 ・ 伊藤 いすず



「二」数年、ADHDなどの「発達障がい」と診断される児童の割り合いが増えてきており、その対応がゆうりんの課題の一つとなっています。

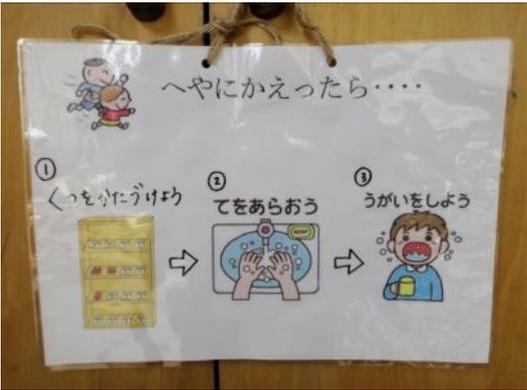
「施設」での生活を共にするうえで、「他児と同じ」ではなく、その子の特性やこだわり等を考えた上で、特別な関わりが必要になってくるケースがあります。

例えば、話を通らず突然パニックになることで大勢の子どもたちを巻き込んでしまうようなこともありますが、その様な状況をできるだけ避けるため、事前にできうることを考え、対応に工夫を重ねてきています。



## ○絵での表示

聴覚よりも視覚からの刺激で話が入りやすい子が多いため、わかりやすく絵で指示することで生活習慣を身につけられるようにしました。

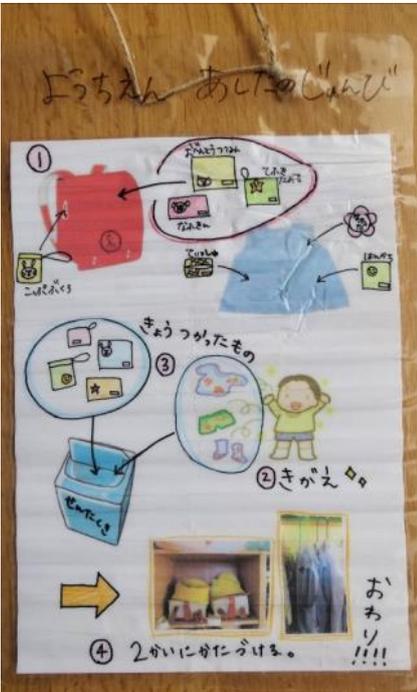


## ○おやくそく表

本人の苦手なことを5つに絞り、箇条書きにして表を作成。特に日常生活の中で、これができないと困るということを優先的にピックアップします。そして毎日職員と読みあわせをおこない、繰り返すことにより内容が頭に入り生活の中での注意も聞き入れ易くなりました。

## ○がんばり表

生活の中で身に付けた習慣などをピックアップします。例えば、朝の支度がなかなかできず、登校の分団に間に合わないことが多い場合、出発時間に間に合うようにすることを目標として、「7時半までに朝食を食べ終える」と決めます。職員から本人に対しても「がんばり表に○がついたら



られないよ」と声掛けができるようになり、それに感化されて本人自身がスムーズに動けるようになります。○の数を増やすことによって「できて嬉しい」という成功体験を積み重ね、自信につなげていくことが目標です。

子どもの障がい・特性・好みを理解した上で、子どもの姿を予想し、自分の中で対応を考えておくことで余裕を持った関わりができるようになります。時には、医療機関と連携しながら細かな対応方法を探っていくことが必要な場合もあります。

児童養護施設には様々な課題や背景を抱えた子ども達が入所しています。障がいのあるなしに関わらず、問題行動が収まらない子どもには正しい関わり方を大人が学び理解する必要があります。そして、大人の関わり次第で子どもはどれだけでも伸びるものであると実感しています。

# 職員紹介

ほだか保育士

生田 あさ美

私は、大学を卒業してすぐに新設されたほだかで働き始め、今年で6年目になります。

ほだかの職員として、これまで楽しいこともつらいことも様々なことがありました。子どもたちの笑顔や寝顔がかわいくて、うれしいこともたくさん。その反面、仕事を覚えられなくて、いろんなことが悔しくて、泣いたこともたくさん。毎日その繰り返しですが、振り返ってみるとその繰り返しによって、少しは成長できたのかなと感じています。

以前、他の乳児院で働く職員さんと話す機会があり、乳児院から児童養護施設へ移行した子どもとは、ほとんど関わることなく、元気にしているかなあという話を聞きました。

私が初めて担当した子は、ゆるりんで元気に生活しているので、いつでも顔を合わせることが出来ます。今でも「いっちゃん」と、ほだかの時と同じニックネームで呼んでくれたり、かわいらしい白い歯を見せて笑ってくれるところは以前と全く変わらないけれど、

背が伸びたことやお手紙を書いてくれるところは、「ああ大きくなったんだなあ…」と感じています。

先日は、私の結婚式に来てくれました。綿帽子姿の私を見て「餃子被っているみたい」と言っていた彼女は、4月から小学生です。ランドセル姿の彼女を見て、何て言おうかな、「あっ、ランドセルが歩いているみたい！」と目を潤ませている自分が想像できてしまいます。ランドセルが小さく思えるのもきつとすぐでしょうね。これからも影ながら彼女の成長を見守り、私自身もほだかの職員として日々成長していきたいと思っています。



ゆるりんケアワーカー

久嶋 亜矢子

この一年を振り返ってみると、ゆるりんでの生活は、刺激的で楽しく、毎日子ども達からたくさん笑顔と元気をもらっているように感じます。

小舎制ということもあり、一つひとつの小舎が本当に家庭的な雰囲気です。私にとっても担当の部屋の子どもたちは、家族のように大切に特別な存在です。

子どもが学校から帰って笑顔で今日の出来事や友達とのこと、学校で先生に褒められた話などをしてくれる時、私自身が生活の一部になれていることに、小さな喜びを感じます。また自転車に乗れるようになったり、字が読めるようになったことが出来るようになり、その瞬間に立ち会えていること、子ども達が日々成長していく姿を見ることが出来ることにやりがいを感じています。

私自身、今まで他の施設で保育や病児療育に携わってきましたが、ゆるりんでは出会う子ども達はそれらの子ども達以上に一人ひとりがそれぞれ深いものを抱えてい

るということを感じます。ゆるりんでは働き始めて一年経ち、子ども達との関係も出来てきたかなと感じられるようになってきた今、見ることでできなかった子ども達の深い部分も含めてようやく見えてきたような気がしています。

日々の生活の中での子どもへの対応に、まだまだうまくいかないことや悩むこともあり、辛いことや難しさを感じることもありますが、子ども達にとってより良い関わり方をするために、先輩職員に相談をして助言をいただいたり、学習会に参加して勉強したりと模索しながら関わっています。

児童養護についてまだまだ分からないことばかりで、課題もたくさんありますが、子どもたちと一緒に成長をしていきたいと思えます。



# 事務局通信

## 今年度事業計画より

社会福祉法人中央有鄰学院は、平成22年4月に児童養護施設ゆうりん全面改築に合わせ、乳児院ほだかふれあいセンターをおだかかを併設、複合施設として改めて事業運営を開始し、5年が経過しました。

その間、厚生労働省より、児童養護施設・乳児院の小規模化及び家庭の養護の推進が指針として示され、中央有鄰学院が全面改築を通して目指した小舎・ユニット化が国の方向性と合致するところとなりました。

さらに、社会的養護において9割が施設に措置されている子どもたちの現状を、平成41年度を目途に、本施設・グループホーム・里親等、各3分の1ずつにする」という方向性も打ち出されました。

現行の事業運営のより一層の充実とともに、家庭の養護の推進に向け展開することが法人の使命ともいえます。さらに法人が長期的に運営できるよう、事業の多角化を視野にいれ、平成26年度には介護保険事業の運営も開始しました。

児童福祉事業の拡充とともに、他領域の事業を展開し、複合型の法人運営を目指します。

また、平成26年度より着手された区画整理にて、法人所有の敷地が拡充されます。そこで、平成29年度を目途に同敷地内における本施設設の充実とともに新規事業の開設を目指します。

今後ともご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成26年8月1日から平成27年3月31日までに「寄贈招待ボランティア活動」に協力いただきました方々のご紹介をさせていただきます。紙面の都合上内容は省略させていただきます。順不同敬称略記載されていない方がございましたらお許しください。

### 【個人】

相地秀美 安藤久美子 金田和久  
飯高将司 吉長野子 浜島四郎  
いわせてつや 上野 美津代 山本昌市  
大瀬良美沙紀 川瀬喜世美  
北尾実 佐藤友行 山口ミツノ  
下村康範 ジェイムス・ヘイブンス  
鈴木一弘 鶴見利雄 永岡進  
西川慶子 二村繁美 濱砂由美  
林正彦 福原亜也美 丸山圭子  
松山里織 溝口康江 門司一徹  
山田佐智子 山口和子 山口和広  
エバタおばあちゃん 古川貴子  
クリステリア・ロナウド  
伊達直人 竹内 智星 針山 信康  
二村 芳行 須藤 ヨシ子 石井 祐治  
福嶋俊郎 矢守 信昭 藤村賢治  
名波 容子 安井 洋子 山口実  
山口春美 児玉克己 児玉京子  
持橋いくよ 木下福朗 植田望  
梶野智子 松永正子 松山信  
野津信子 水野 太久蔵 近藤 光男  
田中光代 門川ひとみ 八住 智明  
真木 芳子 河原木 英子 山口 隆義  
西川 紀子 長谷川達也 永谷 康信  
谷藤沙希 蜂野 充子 畔柳まどか  
泉里沙 星野美弥子 星野雄大  
種洋史 藤吉紀子 谷本美枝子  
早川 由照

### 【法人】

㈱安納スウィーツファーム ㈱ITO  
岩塚学区女性会 中部善意銀行  
㈱大野加工流通 ㈱オータ鳴海店  
オサム・ファーム カープス大府勤文前  
カルビー㈱中部支店 BABY CHIPS  
NPO法人キッズ・ドリーム・パートナーズ  
金城会 KEIZ 大高店 タキヒョー  
㈱チュチュアンナ 投資家テスト2号  
㈱トーハン従業員組合 アオキ工業  
NPO 法人 こどもハートクラブ

コストコホールセール・ジャパン㈱  
㈱さんわコーポレーション JAあいち  
正直屋コンフレックス㈱ SHRIMP  
全国シヤンメリー協同組合  
㈱ソロピッツアナポレター  
ダスカリデスグループ 中山商事㈱  
名古屋食肉三水会協同組合

㈱名古屋食糧 名古屋商工会議所  
日本玩具及人形連盟名古屋支部  
㈱日本テック 日本レコード協会  
日本ベビーフード協議会 一步の会  
NPO 法人ひだまりの丘 カゴメ㈱  
NPO 法人フラワーキヤンドル ㈱東芝

㈱ブライド・トゥ・ビー 大新食品  
フジトランスコーポレーション  
ファイリッパモリスジャパン㈱  
尾州商会 地方紙正月連合 りんの会  
ポッカサッポロフード&ビバレッジ㈱  
マニユライフ生命保険㈱ ブラネット

まるごみ薩摩本部実行委員会 楽天㈱  
緑区社会福祉協議会 名糖産業㈱  
山口晃司三弦会 ㈱ゆうちょ銀行  
ライフサポート仁科 ははの箱助成金  
名古屋養ライオンズクラブ

愛知県建具協同組合 スポーツ DEPO  
サンシャインクラブ ㈱MTG  
ココ・コーライーストジャパン㈱  
もぐら人形劇 共同募金配分金助成  
ありがとうこだま基金 富士ダイス㈱  
ミニMAG2014実行委員会

霊友会第八支部ふれあい隊 円道寺  
カトリック聖マリア在俗会  
グレーストウルースチャーチ  
大高南学区民生児童委員協議会  
緑区更生保護女性会 日本鏡餅組合  
熱田神宮宮庁 アニマルセラピー

CBC助成金(愛知県共同募金会)  
ちびっ子の集い利用者一同 ㈱結  
愛知県赤十字救急奉仕団 おやじの会  
中京大遊びグループ 木村スポーツ  
セブインレブ名古屋大高南店  
名古屋熱田ロータリーアクトクラブ

守山商工会 鳴海商工会 有松商工会  
㈱ジェイストーム NHK名古屋放送局  
中部日本放送㈱ 名古屋テレビ放送  
東海テレビ福祉文化事業団  
中京テレビ放送㈱ テレビ愛知㈱  
中日新聞社会事業団 荒川精肉店  
パームタウン大高

## COLUMN

4月を迎え、児童養護施設に赴任して丸2年、そして3年目に突入しました。「石の上にも3年」は、よく聴く言葉ですよ。

3年たてば、冷たい石も、あつたかいんだから〜となり(失礼)、忍耐の大切さを表す言葉ですね。

でも、企業トップの方々はこの先を言います。

「石の上にも3年、風雪5年」と。

「風雪」とは、きびしい苦難や試練を意味します。

そしてさらに

「石の上にも3年、風雪5年、苦節10年」・・・

「苦節」とは、逆境にあつても、自分の信念や態度を固く守りとおす心・・・

子どもたちの社会的自立を支援する仕事、3年目ではまだまだですね。

